

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	LX10	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.049	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：LX10

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

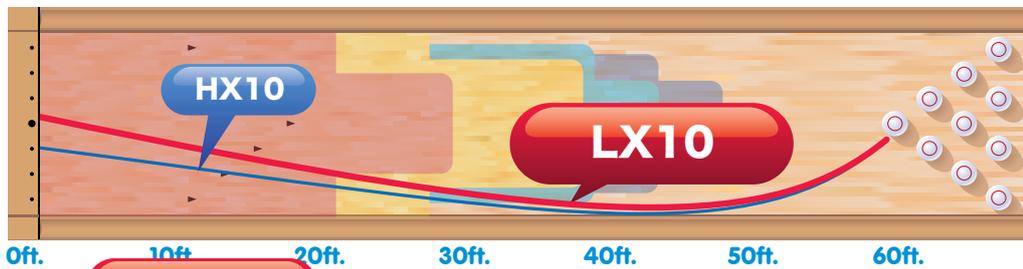
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：HX10

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

TRACK社は”L”の性能を出すために共通してQR(Quick Response)Coverstockを使用しています。今までのLシリーズではLx16がQR-8 Pearl Coverで、Lx05がQR-4 Hybrid Coverを使いました。そして今回このLx10がQR-6 Solid Coverで、シリーズ中初のSolid Coverstockを採用しています。

Solid CoverstockとFace Coreとのマッチングは、パフォーマンスをミッドレーンから出そうとするSolid Coverstockとバックエンドでネジれるイメージを作れるFace Coreとの良い組み合わせであり、”L”のパフォーマンスを感じさせる手前からの強めのキャッチと持続性のある曲がりは、回転数が少ないボウラーには最適です。

このLx10はSolid Coverstockの特性をよく出していますので、ドライゾーンで急激なキャッチの反応の良さの曲がり方を求めるよりもややオイルを長く使いながらのラインを選択したほうが安定したパフォーマンスが出るように感じます。ドライゾーンに早めに出てしまった場合急激に摩擦の影響で全体的な動きが緩慢に感じてしまうので、Face Coreのエネルギーをブレイクポイントまで維持できるライン取りを選択するのが良いでしょう。

私の投球したイメージでは回転数が少ない方はもちろんのこと、回転数の多いボウラーでもオイルの多いコンディションでキッチリパフォーマンスを出せる性能に仕上がっていると感じました。Lx05と同じようなキャッチからLx10はもうひと曲がり動きを期待できるイメージで投球できますし、柔らかめのピンアクションがポケットの幅を広げてくれるでしょう。

特記事項 QR(Quick Response)Coverstock初のSolid Coverstockを採用して、ミッドレーンの強めのキャッチと持続性のある曲がりを実現させています。回転数が少なめの方から回転数の多めの方まで幅広く使用して頂けるでしょう。